

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.32 (1998.12.5号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1998.12.23. ; 8,[2]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

<阪神大震災・復興支援>

被災地発、全国のみなさまへ

被災地宛ての手紙、物資、資金カンパなど、全国の皆様からの日々のご支援により震災支援を続けることができ、心より感謝申し上げます。

現在も仮設の統廃合が進められ、移転後の環境の激変と孤立化により、倒れて病院に運ばれたり、「仮設に戻ってみんなに会いたい!」という方が後を断ちません。

語るスベを持たない子供やお年寄りにとっては、死活にかかわる物質的支援と同時に、人の温もりが感じられる心のケアがますます急務となってきています。

当協会は、神戸市長田区の西代仮設、長寿友の会（長尾代表）の受け入れの元、連帯して、被災地の小中学校に「全国文通文集」の地元配布を呼びかけてきましたが、ようやくこの11月より、子供たちによる仮設・復興住宅の一人暮らしのお年寄りへの手紙・文集の配布が始まりました。

仮設全廃に先がけて、全国の子供たちの手紙を被災地の子供たちが地元で配って行く継続的取り組みにより、顔の見えるコミュニティ作りが可能となります。

11月10日、約3年ぶりに、西代仮設など被災地を巡回した国連NGOの役員が、改善されぬ状況に驚き、「日本のような豊かな国で、驚くべきことだ...」と報告しました。都市化が進む日本社会において、被災地の状況は他人事とは思われません。特に子供たちやお年寄りには、人の生活や温もりが感じられるコミュニティが不可欠です。

この冬も、中学生と共に毎週被災地を訪れます。小中学校への姉妹校作りや、学校ぐるみのボランティア活動への取り組みも継続して呼びかけています。全国の皆様の変わらぬご支援・カンパをお願い申し上げます。

<鄭チョン>

[写真あり 長田小学校の子供たちと仮設住宅を訪問 神戸市長田区、1998年11月29日 省略]

ボランティアさんが作るページ

今日はコリアボランティア協会と私の出会いについて、少しお話しさせて下さい。

私の高校時代の友人が、神戸で被災した事を伝え聞いて、心配しましたが、その友人は地域の人々のために、ボランティア活動を続けました。

それからずっと私は、「ボランティア」に関心を抱き、ふとした機会にコリアの康さんの事を知りました。

被災地への支援のために、身を持って協会の運営に全力を注ぐ姿に心を打たれました。
また、文通を通じて、被災地との心の交流が続けているスタッフの方たちの熱意に、私は深く感動しました。
私にとって、みなさんとの出会いは、ボランティアとして役に立ちたい気持ちになることができた、大切な経験です。ボランティアの灯を守っていける一人に、私もなりたいと心から願っています。

金 静子

お知らせとおねがい

全国震災支援チャリティ美術展マラソン（次回12／7～19詳細、付録にて）
7回目を池田市でむかえ、その後も続けてゆきます。

震災風化をさせぬため作品提供者・場所提供者・準備ボランティアさん

1999.1.23（土）当協会主催「ぼくの性・わたしの性」参加者（当事者）
準備ボランティアさん
募集中!!

(c)1998コリアボランティア協会編集部(デジタル化：神戸大学附属図書館)